

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月 9日

大阪府知事 殿

受 付	
令和	-5.6.-9
泉農緑第	号
大阪府	

提出者

住 所 大阪府泉佐野市住吉町1番地
氏 名 不二製油株式会社
代表取締役社長 大森 達司

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	不二製油株式会社 阪南事業所
事業場の所在地	大阪府泉佐野市住吉町1番地
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09:食料品製造業
②事業の規模	グループ本社の連結売上高：5,574億円
③従業員数	1,062人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙添付資料（工程フロー）のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	排 出 量	1.97 t	13.84 t
	(これまでに実施した取組) ・脱水機の更新を行う。(有機性汚泥(スカム)) ・LOT切れ間近製品の再加工を強化する(有機性汚泥) ・ピット汚泥回収の際に水分を少なくする(有機性汚泥) ・賞味期限切れ前の販売部への早期販売促進と管理徹底(動物性残さ) ・おからを有価で買い取ってもらう(動植物性残さ)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	排 出 量	1.97 t	13.705 t
	(今後実施する予定の取組) ・脱水機の安定稼働により、更なる削減を図る(有機性汚泥(スカム)) ・LOT切れ間近製品の再加工推進を継続する(有機性汚泥) ・ピット汚泥回収の際に水分減少の取組を継続する(有機性汚泥) ・余剰豆乳を他工場製品に混合する事で廃棄削減(有機性汚泥) ・生産・販売のバランスを管理し賞味期限切れを防止する(動植物性残さ) ・おからの有価での買い取り数量を増加させる(動植物性残さ)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・各産業廃棄物はそれぞれに分別、保管をしている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特になし

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
572.67 t	2303.534 t	1167.723 t	3705.19 t
【目標】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
561.25 t	2273.837 t	1058.054 t	3705.19 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
13721 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t
【目標】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
13721 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
①廃酸	②管理型混合廃棄物	③木くず	④有機性汚泥(活性スラリー)
133.35 t	0.65 t	3.63 t	37308 t
【目標】			
①廃酸	②管理型混合廃棄物	③木くず	有機性汚泥(活性スラリー)
133.35 t	0.65 t	3.63 t	37308 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組） ・乾燥処理し売却（有機性汚泥（スラリー））		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組） ・予定なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
（今後実施する予定の取組） ・脱水機の更新を行った（有機性汚泥（スカム））			
（今後実施する予定の取組） ・脱水機の安定稼働により、更なる削減を図る（有機性汚泥（スカム））			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
【目標】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
- t	- t	- t	- t
【目標】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
- t	- t	- t	- t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
【目標】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
10921.51 t	- t	- t	- t
【目標】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
11421 t	- t	- t	- t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	⑭有機性汚泥（活性スラリー）
- t	- t	- t	261 t
【目標】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	有機性汚泥（活性スラリー）
- t	- t	- t	261 t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	⑭有機性汚泥（活性スラリー）
- t	- t	- t	- t
- t	- t	- t	37047 t
【目標】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	有機性汚泥（活性スラリー）
- t	- t	- t	- t
- t	- t	- t	37047 t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・予定なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
	全処理委託量	1.97 t	13.84 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.97 t	0.31 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	13.84 t
	認定熱回収業者への処理委託量	1.97 t	- t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	- t	- t
(これまでに実施した取組) ・委託処理業者を定期的に訪問し、処理状況等を確認。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
【目標】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
- t	- t	- t	- t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
572.67 t	2303.534 t	1167.723 t	3705.19 t
539.47 t	526.274 t	1147.823 t	999.35 t
565.87 t	2118.664 t	986.743 t	3705.19 t
- t	184.87 t	180.98 t	- t
- t	- t	- t	- t

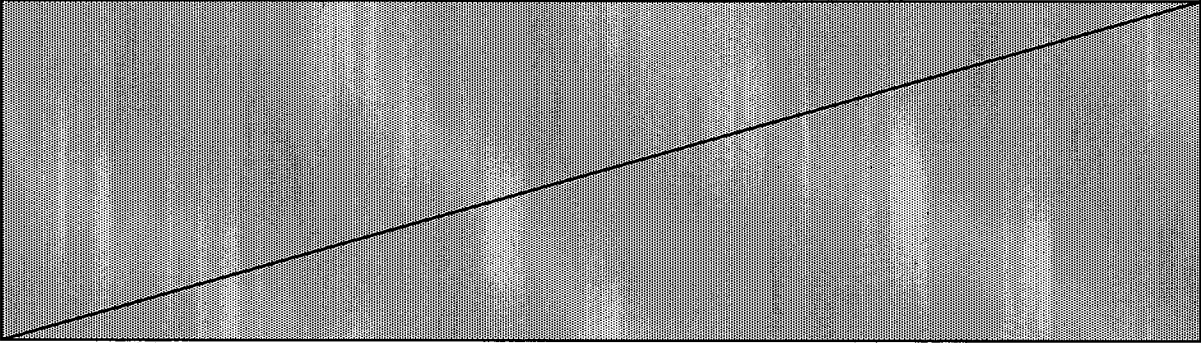
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
【目標】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
- t	- t	- t	- t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑦有機性汚泥(スカム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
2799.49 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t
171.91 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t
2799.49 t	0.245 t	0 t	0.45 t
- t	- t	4.05 t	- t
- t	- t	- t	- t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	⑭有機性汚泥(活性スラリー)
- t	- t	- t	- t
【目標】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	有機性汚泥(活性スラリー)
- t	- t	- t	- t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（2022年度）実績】			
⑪廃酸	⑫管理型混合廃棄物	⑬木くず	⑭有機性汚泥(活性スラリー)
133.35 t	0.65 t	3.63 t	- t
9.73 t	0.65 t	0.53 t	0 t
133.35 t	0.65 t	3.1 t	0 t
- t	- t	0.53 t	- t
- t	- t	- t	- t

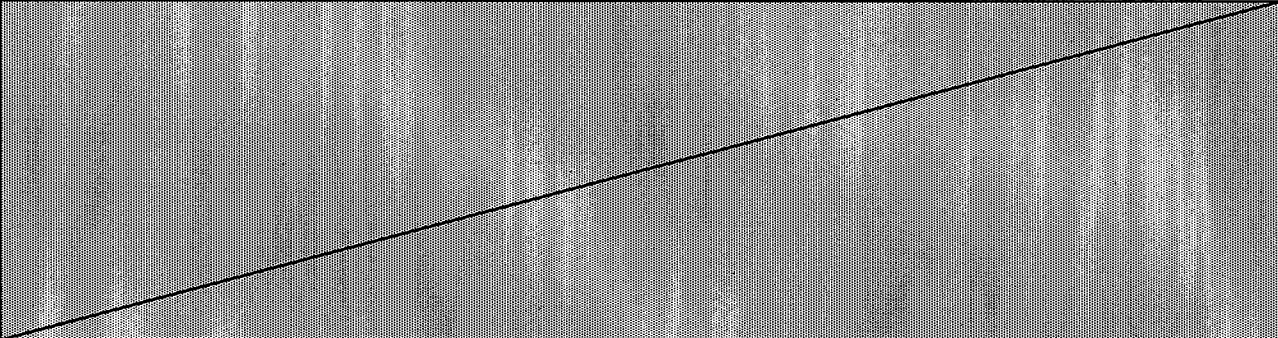
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	①ガラスくず等	②金属くず
②計画	全処理委託量		1.97 t	13.705 t
	優良認定処理業者への処理委託量		1.97 t	0.31 t
	再生利用業者への処理委託量		0 t	13.705 t
	認定熱回収業者への処理委託量		1.97 t	- t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		- t	- t
	(今後実施する予定の取組) ・委託処理業者に対して、引き続き定期的に現地確認を行い、施設・設備、処理状況等を確認する。			
※事務処理欄				

【目標】			
③廃プラスチック類	④動植物性残さ	⑤有機性汚泥	⑥無機性汚泥
561.25 t	2273.837 t	1058.054 t	3705.19 t
539.47 t	526.274 t	1147.823 t	999.35 t
554.45 t	2088.967 t	877.074 t	3705.19 t
— t	184.87 t	180.98 t	— t
— t	— t	— t	— t



【目標】			
⑦有機性汚泥(スラム)	⑧廃電池類	⑨廃溶剤	⑩蛍光灯
2300 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t
171.91 t	0.245 t	4.05 t	0.45 t
2300 t	0.245 t	0 t	0.45 t
- t	- t	4.05 t	- t
- t	- t	- t	- t

【目標】			
①廃酸	②管理型混合廃棄物	③木くず	④有機性汚泥(活性スラリー)
133.35 t	0.65 t	3.63 t	- t
9.73 t	0.65 t	0.53 t	0 t
133.35 t	0.65 t	3.1 t	0 t
- t	- t	0.53 t	- t
- t	- t	- t	- t

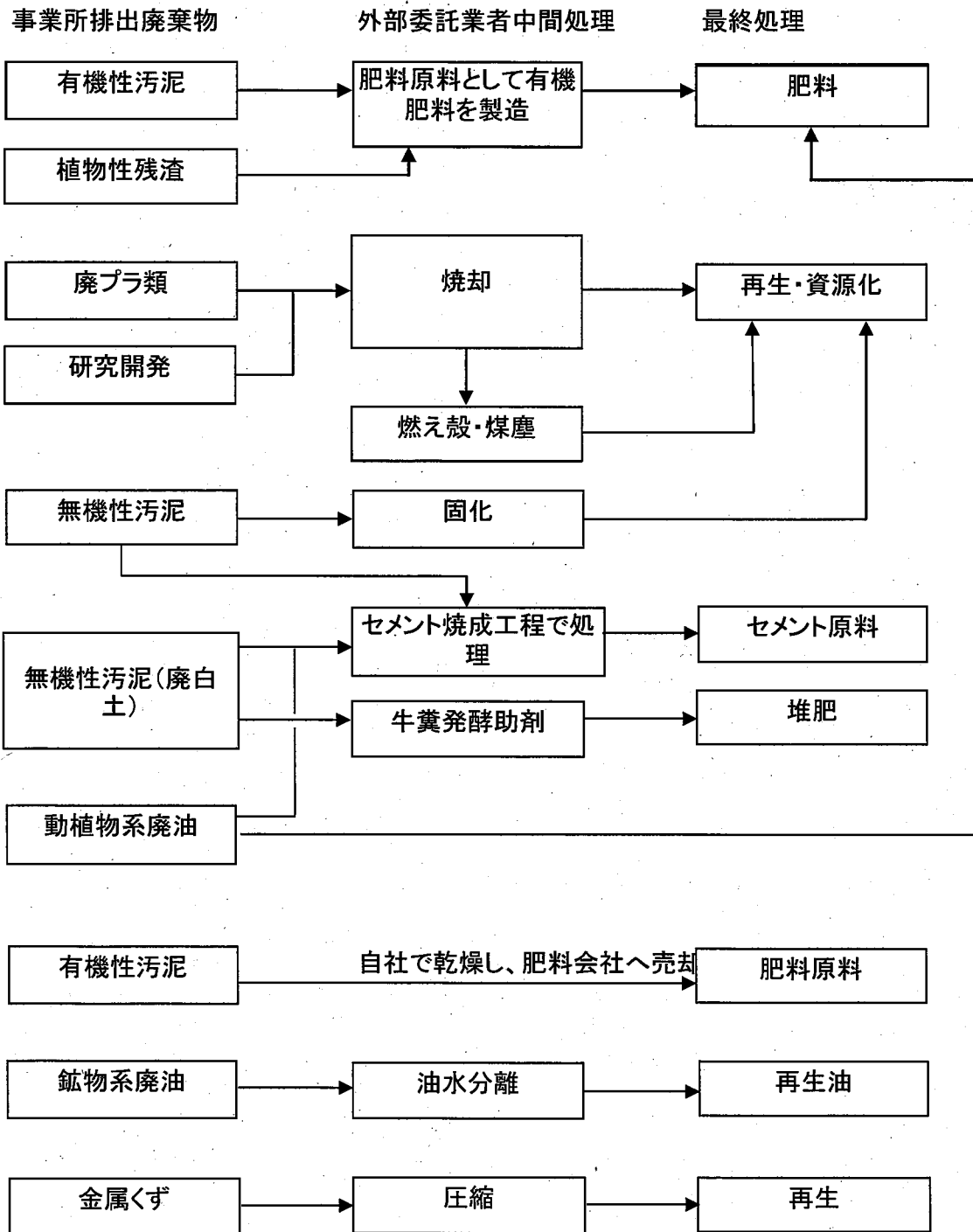


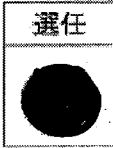
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出抑制及び減量化に関する資料
処理工程フローシート



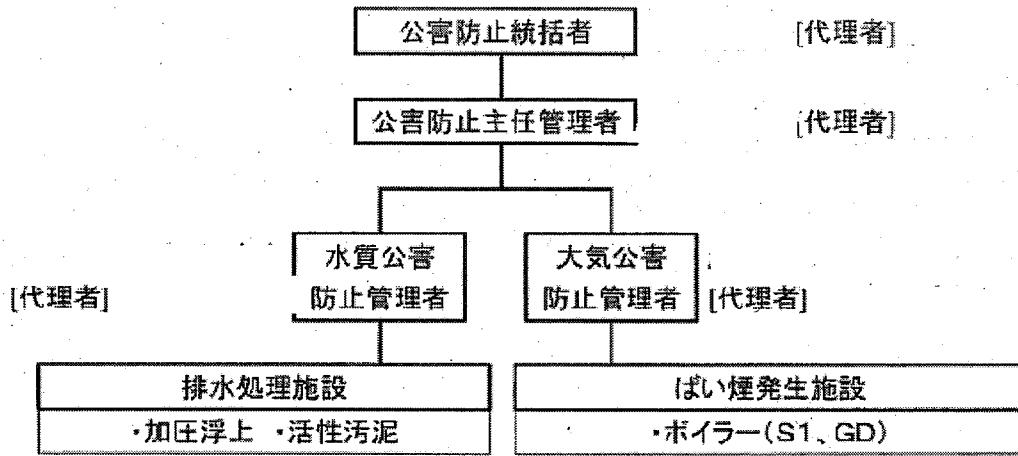


阪南事業所 公害防止／廃棄物管理 組織

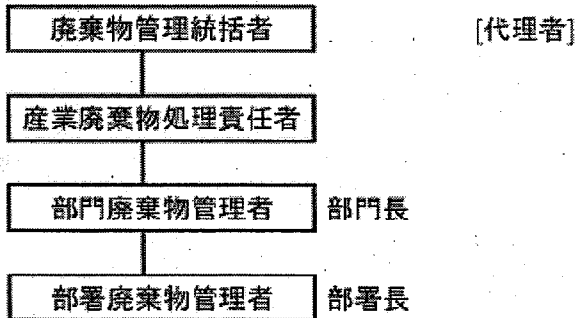
下記管理者を選任して組織を定め管理する。

公害防止管理組織

2023年4月1日



廃棄物管理組織



産業廃棄物管理責任者
特別管理産業廃棄物管理責任者